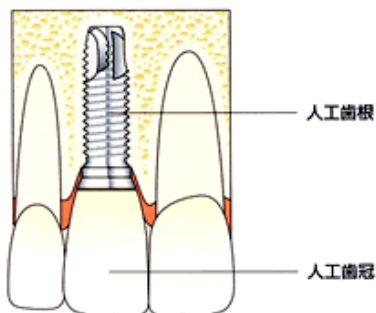


し、維持するためには自分の歯以上のメンテナンスが必要です。

一方、僕のテーマは「地域で実践する口腔ケア」で歯科衛生士の会場の中でも最も小さい所でした。それでもこの分野があるだけよかったという感じですよ。

さて、訪問診療で在宅ケアを受ける高齢者を拝見している僕たちは普通に「インプラントの人が寝たきりになったとき誰がメンテナンスしてくれるんだろう」と思っています。施設などではただでさえ手が足りず、口腔ケアが十分にできていない状況



で、インプラントの人たちにはそれ以上の技術、知識を持ったケアが必要なのです。もう一つの

問題は、自分の歯であれば在宅でも抜歯できるのですが、インプラントではそうはいきません。それなりの設備が整わないと抜去できません。在宅の患者さんでインプラントが痛いと言われたらどうしようと今から考えてしまいます。

インプラント自体は進化するでしょうが、寝たきりになることを想定してはいないんです。人生の後半期に使う物であれば人生最後まで想定した物を考えるべきじゃないんじゃないか。

ちなみに僕のセッションは小さいながらも会場はいっぱいになりました（八十人くらい）。僕のクラスに来る人にはわかるだろうと思って主催者の意図もかえりみず、インプラントに対する否定的な意見をたくさん言いました。言ったもの勝ちですし。

問題は、その講義がDVDで発売されることを忘れていたことです：

認知症の人と家族の会

先月、別のシンポジウムで「認知症の人と家族の会」の世話役の方と一緒にしました。会は全国組織で歴史もあり、多くの方が会員になられています。ご一緒した女性はとてもバリエーティある方で、その活動趣旨もよく理解できました。特に、「ボケることが悪いんじゃないくて、ボケたとしても安心して暮らせる社会を」とおっしゃっていたのが心に残りました。いろいろな活動が全国で開催されているようですからご興味がある方は一度調べて見られるといいと思います。